

奈文研との学術交流に参加して

中国社会科学院考古研究所と奈良文化財研究所は1991年より長期にわたって共同研究を実施してきました。中日両国の文化交流史に関する学術研究を促進し、中日の友好関係をより確かなものにするために、2017年に改めて「友好共同研究議定書」を締結しました。両研究所の人員が相互に訪問し、関連する遺跡や遺物の調査研究に参加し、適切な研究課題を選択し、共同研究を継続的に進めることを目指します。こうした枠組みのなかで、2018年11月15日から12月14日まで日本を訪問し、学術交流をおこないました。

日本滞在中に実施した主な仕事は以下の3点です。

- ①東大寺東塔院および平城宮東区朝堂院の発掘調査、
- ②飛鳥時代から平安時代の都城遺跡と寺院遺跡、中日文化交流に関連する遺跡や遺物の調査、
- ③中国鄴城遺跡に関する最新の発掘調査と研究成果の報告。

短期間ではありましたが、日本の発掘調査や資料整理の方法を学ぶことができ、自国での発掘調査や研究について改めて考えるきっかけとなりました。関連する遺跡の見学や博物館での資料調査では、考古学や歴史学の情報収集に注力するだけでなく、遺跡保護や展示活用の視点から日本の博物館における展示設計、遺跡公園の建設や管理運営についても注目しました。今回の学術交流を通じて、日本の都城考古学についての認識を深めることができ、今後、都城考古学研究を進めていく上で大いに参考となりました。

最後に、今回の滞在中、多くの日本人研究者と知り合い人脈を広めることができました。今後も学術交流を通じて、両研究所の共同研究や友好関係が促進発展するよう微力ながら協力していきたいと思います。

(中国社会科学院考古研究所 沈麗華、
翻訳 今井晃樹)



平城宮東区朝堂院の発掘調査現場にて(前列右から3人目)